

東京栄養サミット2021における外務大臣歓迎挨拶

御出席の皆様、

本日は東京栄養サミットに御参加いただき、ありがとうございます。

前回、2016年のリオ・デ・ジャネイロでの栄養サミットから5年が経ち、その間、世界は大きく変わりました。現在、世界では10人に1人が飢えや低栄養に苦しみ、同時に、3人に1人が過体重や肥満の状態にあるといわれます。成長を妨げる低栄養と、生活習慣病等を引き起こす過栄養という「栄養不良の二重負荷」は世界全体が抱える課題です。さらに、新型コロナは栄養問題を深刻化させています。先進国・途上国双方の政府、民間企業、市民社会、学术界を含む全ての関係者が一致団結してこの重要な課題に取り組む必要があります。

栄養不良は人間の生命・健康のみならず、経済や社会にも大きな影響を及ぼす深刻な問題です。東京栄養サミットでは、①栄養とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、②安全で持続可能かつ健康的な食料システム、③脆弱な状況下における栄養不良対策、④データに基づく説明責任、⑤栄養のための資金調達の5つのテーマを中心に議論を深めます。

私自身、これまで国連食糧農業機関（FAO）議員連盟会長として世界の食料問題の解決に積極的に関与してきました。引き続き、一人でも多くの人の栄養状況を改善し、誰も取り残されない社会を実現すべく、国際社会をリードしていく考えです。

今回の東京栄養サミットを通じ、全ての関係者が野心的なコミットメントを発表し、私たちが新たなステージに立ってこのサミットを終えることができることを心から期待しています。

それでは、本日のサミットを主催する日本政府を代表して、岸田文雄総理大臣から開会の挨拶を頂きます。